科目名			担当教員	
社会福祉援助技術演習 B			三浦剛／関川伸哉／高野亜紀子／清水冬樹／芳賀恭司／二渡努／眞嶋智彦／石田力／須田仁ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CN4083	3	1	SR (講義)	3 年以上
履修登録条件		「演習Ａ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※ 履修の前提科目は『学習の手引き』３章をご参照ください。
※ 本科目は 2026 年度より新カリキュラムの演習と合同で開講します。
※ 2009 年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008 年度以前入学者、福祉心理学科、科目等履修生の方は、履修することはできません。
※ 社会福祉士国家試験受験資格を目指す学生を対象とした講義となります。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とします。社会福祉士に必要とされる専門知識、専門技術の習得や専門職として求められる相談援助の一連の過程について、具体的な事例検討等を通してその内容を熟知します。また、支援計画立案に関しての基本的な知識・技術の習得を図ることに焦点をあてながら、併せて社会資源の活用や、利用者理解、そして社会生活上の課題に対する理解を深めていくことを目的とします。

■到達目標

１）一連の相談援助過程を具体的イメージを持って説明でき、その基本的な技術を演習場面において実践できる。
２）事例などから支援計画を作成することができる。
３）社会資源の活用やネットワーク形成の技術について具体的に説明できる。
４）プロセス評価、効果測定についてその方法を説明することができる。
５）社会福祉援助活動で使用される基本的な言葉の意味を的確に理解し説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価４０％＋スクーリング評価６０％

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座［専門科目］７ソーシャルワーク演習（社会専門)』中央法規出版、2021 年

（最近の教科書変更時期）2026 年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

1）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１２ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、２０２１年

2）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１１ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、２０２１年

3）稲沢公一、岩崎晋也編著『社会福祉をつかむ【第３版】』有斐閣、2019 年

4）東洋大学福祉社会開発研究センター編集『社会を変えるソーシャルワーク（新・MINERVA 福祉ライブラリー35）』ミネルヴァ書房、2020 年

5）木村容子、小野眞知子編著『ソーシャルワーク論Ⅰ：基盤と専門職』法律文化社、2023 年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

1）この科目は、スクーリングの受講が必須となります。

2）1 クラス 20 人以内の少人数で開講します。

3）受講料は 10,000 円となります。

4）受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。

5）スクーリング開講日・申込締切日は、通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。

6）申込方法は、通信教育部 HP 掲載の『With』またはポータルサイトで案内します。

7）クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。

8）申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。

9）公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■演習Ｂ　スクーリング受講条件

受講判定日（＝スクーリング申込締切日）までに

① 「社会福祉援助技術総論」「社会福祉援助技術演習Ａ」の２科目分すべてのレポート提出。

② 上記２科目以外に社会福祉士・指定科目のなかから４科目分すべてのレポート提出（個別単位認定科目を除く）。

③ 「社会福祉援助技術演習Ａ」のスクーリング試験合格。

④ 「演習Ｂ」の１単位めレポートの提出。

⑤ （入学後１年以上経過した方は）認定単位を除き卒業要件単位 20 単位以上の修得。

⑥ 社会福祉士養成課程履修費が納入済みであること。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの実際を理解する①（虐待、ひきこもり）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
2	ソーシャルワークの実際を理解する②（貧困、認知症）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
3	ソーシャルワークの実際を理解する③	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン（グループスーパービジョン）を行う。
4	ソーシャルワークの実際を理解する④（終末期ケア、災害時支援）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
5	ソーシャルワークの実際を理解する⑤（虐待、権利擁護、アドボカシー）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
6	ソーシャルワークの実際を理解する⑥（地域の基盤整備と開発）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
7	ソーシャルワークの実際を理解する⑦	１～６回で学習した事例を振り返り、ソーシャルワークにおける総合的包括的支援についてディスカッションし、発表する。
8	ソーシャルワークの実際を理解する⑧	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン（グループスーパービジョン）を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書や配布資料の事例などを用いて演習を進めます。

なお、演習のスクーリングでは「参加」の姿勢が大切です。

■スクーリング評価基準

スクーリングの最後に試験をおこないます。「技術」がどの程度身についたかを直接テストすることはできませんが、このスクーリングを通して、どの程度ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術が、具体的に理解できたかを問います。スクーリング中に学んだ内容から出題します。スクーリング中はこれまで学修した内容を具体的に理解するよう努めてください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

ソーシャルワークについてのこれまでの復習を必ずしてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワークの価値・規範⑴	ソーシャルワークの価値、倫理について	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、社会正義や多様性の尊重などの具体的理解をめざす
2	ソーシャルワークの価値・規範⑵	ソーシャルワーカー（社会福祉士等）としての倫理、行動規範について	職能団体の倫理綱領、行動規範などを参考にする
3	ソーシャルワークの価値・規範⑶	倫理的ジレンマの解決など、価値規範にかかわるソーシャルワークの実際について	当該箇所の事例などを用いて学習する
4	ソーシャルワークの知識と技術⑴	ソーシャルワークの知識と技術について	教科書等で確認し、体系的理解と概念化を目指す
5	ソーシャルワークの知識と技術⑵	ソーシャルワークの過程について	教科書等で確認し、具体的理解を目指す
6	ソーシャルワークの知識と技術⑶	実践について	ソーシャルワーク体系を意識し、実践事例を探し、あてはめる
7	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解⑴	社会的排除による重層的な問題について	８０５０問題、ゴミ屋敷問題、引きこもりなど関係性からの排除によって起こる今日的な社会課題について、その発生のメカニズムなどを調べる
8	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解⑵	現代的な課題解決の方法について	総合的、包括的な支援とは何か、調べる
9	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解⑶	そのためのソーシャルワーク実践について	実際の実践事例などを探してみる
10	地域課題の把握と解決の方法⑴	地域の特性や課題の理解について	現代的な地域課題について、文献などから学ぶ
11	地域課題の把握と解決の方法⑵	地域特性や課題の把握の方法について	地域アセスメントの方法などについて、具体的に調べる
12	地域課題の把握と解決の方法⑶	地域課題解決の方法について	実際の実践事例などを探し、検討する
13	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性⑴	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性について	それぞれのレベルの意味を知り、課題がどのように発生するか調べる
14	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性⑵	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの展開過程について	実際の実践事例を調べ、検討する
15	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性⑶	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの実践について	実践モデルやアプローチを調べる

■レポート課題

※ 1 課題につき 1 冊のレポート提出台紙を使用すること。

※ レポートの提出方法については後述の 「■レポートの提出方法・期限」を参照のこと。

1 単位め	**（スクーリング事前課題）** 相談援助実践における記録の意義と具体的記述方法についてまとめてください。また、同じく相談援助におけるスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてください。 **（担当：相場恵）**
2 単位め	**（スクーリング受講前の提出を推奨）** ソーシャルワークの枠組みを説明し、次に、ソーシャルワークの過程に、①個別支援の事例、②地域支援の事例を、それぞれあてはめて、具体的に述べなさい。 **（担当：三浦剛）**
3 単位め	**（スクーリング事後課題）** 2006（平成 18）年に改正、2007（平成 19）年に公布された「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正に伴う、今後の社会福祉士の役割と課題についてまとめてください。 **（担当：関川伸哉）**

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

※レポート作成に当たっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んだうえで取り組んでください。3 単位めは 3 つ以上の文献にあたってください。ただし、教科書や文献の丸写しは避けてください。

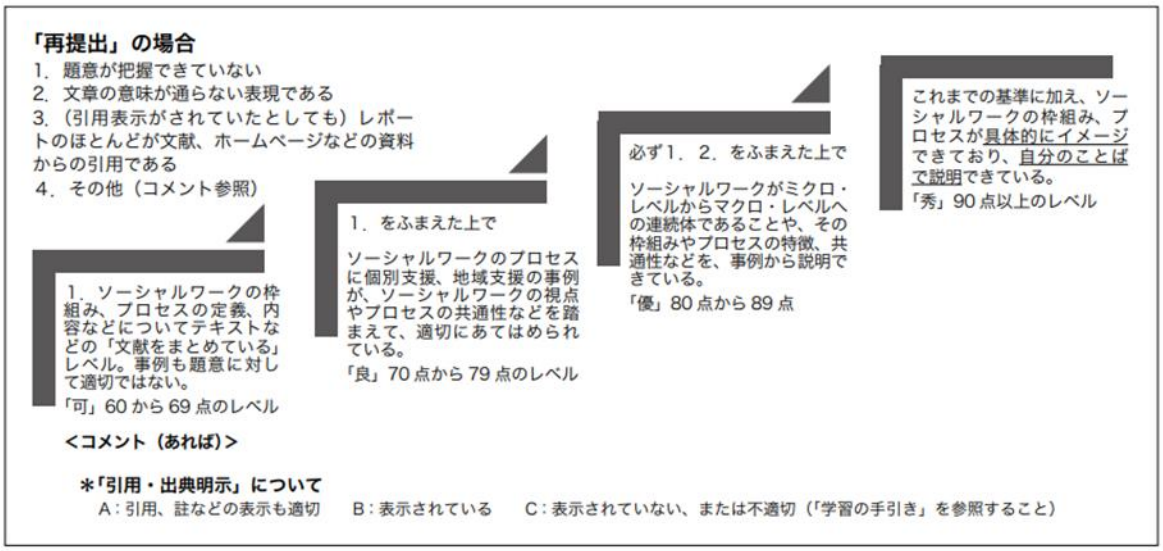
【1 単位めアドバイス】

ソーシャルワーク実践における記録の意義とはなんでしょうか。まず、何故ソーシャルワーク実践において記録が必要なのか考えてみましょう。また、記録形式についてまとめてください。次に、スーパービジョンについてです。スーパービジョンは、ソーシャルワーク実践に関して、知識・技術・倫理等が十分備わっていないワーカーに対してもなされるものですが、経験豊かなワーカーにもその必要性があります。ソーシャルワーク実践において、実践に携わるすべてのワーカーに対して、何故スーパービジョンが必要なのでしょうか。そのスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてみましょう。また、記録とスーパービジョンの関係性も併せて考察してみましょう。

【2 単位めアドバイス】

ソーシャルワークは、人と環境の交互作用に視点をおくことが特徴です。生態学的視点や生活モデルについて、しっかり理解しましょう。そして、ソーシャルワークの過程（プロセス）も、個別支援、地域支援（地域づくりや社会資源開発などの側面）であっても、基本的には同じです。ソーシャルワークが、ミクロ・レベルからマクロ・レベルまでの連続体であることを理解し、事例を用いて具体的にイメージできるようにしましょう（「2 単位めレポート評価の基準」を参考にしてください）。

【2 単位め評価の基準】（レポートに取り組む前に参考にしてください）



【3 単位めアドバイス】

はじめに、2007（平成 19）年公布の改正法にいたる背景について整理してください。その後、課題について客観的にまとめてください。その際に、事実と各自の考察（考え）をしっかり分けて作成するように心掛けてください。具体的には、事実や他者の意見には参考文献番号を本文に記載してください。

・レポート作成の際には、３つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください。

・レポート作成の際、引用個所がわかるように**本文中に全ての引用文献番号を必ず記載**してください。

例）2023 年厚生労働省〇〇調査によれば，〇〇〇〇とされている[1)]．

・必ず、以下の章立てを行ってください。

１．法改正にいたる背景について

２．改正の主な内容について

３．今後の社会福祉士の役割について

４．今後の社会福祉士の課題について

５．まとめ

引用・参考文献

注意）必ず HP 以外の参考・引用文献も使用してください。

【参考文献記載方法：書籍の場合】

１）福祉 太郎・他『ソーシャルワークの理論と実践』東北出版株式会社、22-34、2016 年

【3 単位めレポートの評価・判定について】

評価項目について

本課題における主な評価項目は以下の５点です。

評価方法は、いずれも「A・B・C」の 5 段階評価（・はその中間）になります。

１）法改正の明確な背景が論じられているか。

２）法改正の内容が適切に整理されているか。

３）社会福祉士に期待される役割について論じられているか。

４）社会福祉士に関する今後の課題について論じられているか。

５）適切にまとめられているか。

以上の評価項目を基本に以下のように判定します。

判定について

・【可】及び【再提出】は、いずれかの条件が 1 つでも該当した場合にあてはまります。

【再提出】

・指定の章立てが行われていない。
・評価項目のうち、C が 2 個以上の場合。
・明らかに課題が把握できていないと判断した場合。
・内容が不充分または文章表現が不適切であると判断した場合。
・参考文献が記載されていない。または、HP の文献のみの場合。
・その他（コメント参照）。

【可】

・参考文献数が指定の数より少ない場合。
・評価項目で、B 未満が 2 個以上の場合。

【良】

・評価項目で、全てが B 以上の場合。

【優】

・良の条件の上で、評価項目で B を超える（B を含まない）項目が 3 個以上の場合。

■参考図書

1 単位め

1 ）福山和女編著『ソーシャルワークのスーパービジョン』（MINERVA 福祉専門職セミナー14）、ミネルヴァ書房、2005 年

2 ）副田あけみ・小嶋章吾編著『ソーシャルワーク記録―理論と技法』誠信書房、2006 年

2 単位め

1 ）日本社会福祉士会編『障害者ケアマネジメントのための社会資源開発』中央法規出版、2001 年（図書館を利用してください）

2 ）白澤政和・竹内孝仁・橋本泰子監修『ケアマネジメント講座（1）ケアマネジメント概論』中央法規出版、2000 年

■レポートの提出方法・期限

1）1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。

2）1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右 40 字×30 行×2～4 枚まで可。

3）教員名の欄には、課題ごとの担当教員名を記載してください。

4）各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』参照）。

実習選考試験

■実習選考試験

1）実習受講希望者（実習Ⅰ免除者を含む）を対象に、スクーリング 1 日目の講義終了後に実習選考試験を実施します。

スクーリング１日目、講義終了後	**実習選考試験**
スクーリング２日目、最終コマ	スクーリング試験

2）実習選考試験またはスクーリング試験が不合格となった場合、当年度の実習申込みは無効となります。

3）実習・実習指導全免除者は実習選考試験の対象外となり、スクーリング試験のみ受講します。